

授業科目	感染制御学特論 Infectious Disease Control			担当教員	小林 秀光、小川 由起子、隈 博幸、 佐藤 博、深澤 昌史、太田 一寿、 田中 宏光、高崎 伸也、相田 美和		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1-3 年／前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>1) わが国の感染症法や予防接種法の歴史の変遷を理解し、感染の拡大防止に関する行政の役割について概説できる。</p> <p>2) ワクチネーションの理解を通して免疫化学的な感染症予防法、診断法の原理について概説、議論することが出来る。</p> <p>3) 薬剤耐性菌を中心とする院内感染菌の性状を理解し、概説、議論することができる。</p> <p>4) 院内感染の予防と対処法（危機管理業務）を立案し実践することができる。</p> <p>5) 感染症に対する検査法、診断法を概説し、検査データから予防または治療に必要な処置を提案することができる。</p>							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	薬剤師として感染症の予防・拡大防止に関心を持ち、他の医療スタッフとの関わり方を身に付ける。			授業への取り組み	15%		
思考・判断	感染症予防や診断に関する問題点を指摘し、改良方法について提案することができる			論文調査、レポート	25%		
技能・表現	臨床検査データから、感染症予防または治療に必要な処置を提案することができる。			演習・発表	35%		
知識・理解	現在行われている感染症の予防法（ワクチンを含む）、同定法、診断法を概説することができる。			論文調査、レポート	25%		
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
レポート 50%(思考・判断：25%, 知識・理解：25%)、授業への取り組み 15%（関心・意欲・態度）および演習・発表 35%（技能・表現）で評価する。							
授業の概要							
<p>近年、新興感染症や再興感染症の問題が取りざたされるようになり、病原微生物から健康を衛る対策はますますクローズアップされている。正確な微生物同定法や臨床診断は、感染症予防のみならず的確な医療と薬物療法を提供する上で極めて重要である。特に、感染症の治療において、原因となる微生物の迅速な同定法は医療行為の成否を左右する重要な因子となる。従って、臨床現場においては、医師や臨床検査技師のみならず、薬剤師もその意義と重要性を深く理解する必要がある。この科目では、病原微生物学および免疫学を包含する感染制御について学び、感染症予防と免疫化学的な診断に関する総合的な対応能力を有する専門的人材（感染制御認定薬剤師）の育成を指向する。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：標準臨床検査医学（第4版）高木康編集：医学書院、この他、必要に応じて資料・プリント等を配布する。</p> <p>参考書：項目に応じて、担当者から指定または紹介する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>感染制御認定薬剤師を指向する者は、本科目の履修を推奨する。</p> <p>オフィスアワーについては特に設定しないが、前以ってアポイントメントを取ることで面談可能である。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	感染症の予防1 わが国の感染症法と予防接種法	(小川) 医療関連感染制御の変遷と、感染制御に関わる法制度について議論する。	予習: 微生物の基礎知識と感染症法の変遷について調査 復習: 授業内容に関するまとめ
2	感染症の予防2 院内感染と薬剤耐性菌	(小川) 代表的な院内感染症や抗菌薬の適正使用についてエビデンスに基づく感染対策、サーベイランスと感染拡大への対応について考察する。	予習: 抗菌薬選択とその注意点、薬剤耐性菌について調査 復習: 授業内容に関するまとめ
3	感染症の予防3 室内空気汚染度の微生物学的把握と対策	(佐藤) 室内空中微生物の試験法として、簡単な落下法や浮遊する細菌測定について解説し、データを交えて健康影響について考察、議論する。	予習: 室内空中微生物の試験法と健康影響について調査 復習: 授業内容に関するまとめ
4	感染症の予防4 微生物の分離と同定	(小林) 微生物の種類に応じた分離法と同定法における免疫化学的手法について考察・討論する。	予習: 免疫化学的手法による微生物同定法について調査 復習: 授業内容に関するまとめ
5	感染症の予防5 新興ウイルス感染症対策	(深澤) 近年における事例を参考とし、新興ウイルス感染症の感染経路の理解も含めて、拡大阻止のために行うべき方策を考察・討論する。	予習: SARS, COVID-19 等のウイルス感染症について調査 復習: 授業内容に関するまとめ
6	感染症の予防6 ワクチネーションによるウイルス感染予防	(深澤) ワクチンの歴史を振り返りながら、効果や問題点を調べ、今後の理想的なワクチネーションプログラムを考察・討論する。	予習: わが国におけるワクチン実施の現状と問題点を調査 復習: 授業内容に関するまとめ
7	感染症の予防7 プロテインアレーによる病歴の診断法	(田中宏) 血清を用いた容易な病歴の診断法の開発について、開発の基礎となる、現在の分子生物学的技術について考察・討論する。	予習: 遺伝子工学技術の現状と問題点を調査 復習: 授業内容に関するまとめ
8	感染症の予防8 生体における感染防御	(相田) 新興感染症の原因ウイルス・細菌に対する自然免疫による生体の防御機構を考察、討論する。	予習: 自然免疫系の各受容体が認識する分子について調査 復習: 授業内容に関するまとめ
9	感染症の予防9 タンパク質による感染: プリオン	(高崎) タンパク質の感染により生じるプリオン病の病態、症状、予防について考察、討論する。	予習: プリオン病の病態について調査 復習: 授業内容に関するまとめ
10	感染症の予防10 タンパク質による感染: アミロイドーシス	(高崎) プリオン病からアミロイドーシスまで、広くタンパク質異常凝集についての最新の知見を考察、討論する。	予習: アミロイドーシスについて調査 復習: 授業内容に関するまとめ
11	感染症の診断1 細菌感染症の診断法	(太田一) ヘリコバクターピロリ感染症の診断・治療の現状やトピックスを紹介し、治療方針の妥当性について考察・討論する。	予習: ヘリコバクターピロリ感染について調査 復習: 関連する論文を購読
12	感染症の診断2 抗酸菌感染症の診断法	(小林) 臨床現場で実施されている結核及び非結核性抗酸菌症の診断法を抽出し、問題点を討論すると共に各診断法の改良手法について考察する。	予習: 抗酸菌感染症の診断法に関する調査 復習: 授業内容に関するまとめ
13	感染症の診断3 真菌感染症(酵母・糸状菌)の診断法	(小林) 臨床現場で実施されている真菌感染症の診断法を抽出し、問題点を討論すると共に各診断法の改良手法について考察する。	予習: 真菌感染症診断法に関する調査 復習: 授業内容に関するまとめ
14	感染症の診断4 ウイルス感染症の検査法と診断法	(隈) 肝炎ウイルス, ATL, HIV 及び COVID-19 等のウイルス感染症に対する診断法についてまとめ、各検査法の現状と問題点について討議する。	予習: 当該ウイルスの検査法についての調査 復習: 授業内容に関するまとめ
15	感染症の診断5 ウイルス感染症: 病態生理	(隈) 感染症患者にみられる一般的な主訴と症状について臓器別・部位別にまとめ、主訴と理学的所見を中心とした感染症診断について討論する。	予習: 各種感染症の病態・一般的症状に関する調査 復習: 授業内容に関するまとめ